

# BUSINESS REPORT

## 第55期事業報告書

平成17年3月21日～平成18年3月20日



本社(大阪1号館)店頭ディスプレイ



株式会社 **プロルート丸光**

証券コード 8256

# Total Produce

衣料から寝具・インテリア、日用雑貨まで暮らしをトータルにカバーする「総合前売卸」として小売店様への貢献をめざしています。

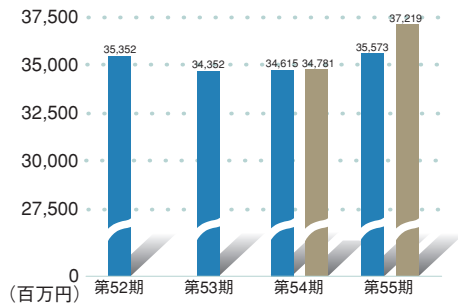
1世紀以上にわたる歴史を通じて、流通シーンのパイオニアとして成長してきたプロルート丸光。時代が変わるごとに生活者のニーズをふまえたマーチャンダイジングで、小売店様のさまざまなご要望に応じてまいりました。これからも時代の変化に素早く対応して新たなビジネスチャンスを創造していきます。

## 経営理念 (すべてを方向づける価値基準)

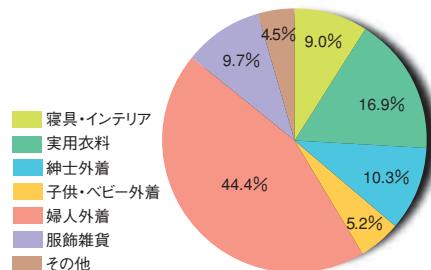
M Management concept

プロルート丸光は成長をめざす小売店の方々に生きた市場を反映した半歩先の商品を提供するため創造的メーカーとともにたえず挑戦する問屋である。

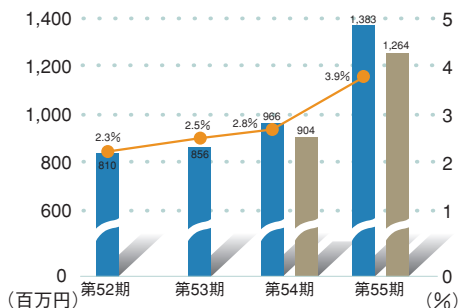
売上高 (■ 単体 ■ 連結)



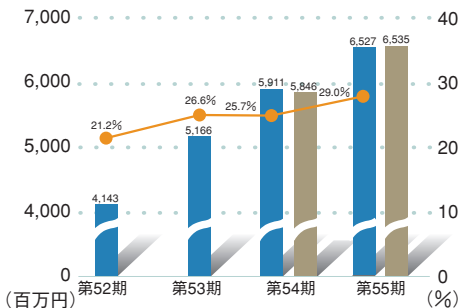
品目別売上高構成比 (第55期・単体)



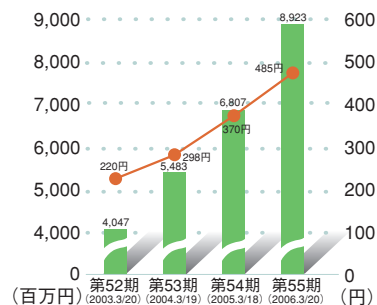
経常利益 (■ 単体 ■ 連結)  
売上高経常利益率 (● 単体)



株主資本 (■ 単体 ■ 連結)  
株主資本比率 (● 単体)



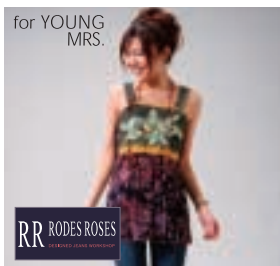
株式時価総額  
株価



PRIVATE BRAND



ヤング向け主力ブランドの一つ。「平成系中高生」「オネエ系」をターゲットにしたトレンドカジュアルです。最新トレンドをふまえた商品企画力に定評があります。



ヤングミセス向けに企画されたカジュアルターゲットブランド。個性的なデザインが魅力です。



シンプルなのに、個性的。機能性に楽しさを加えたオリジナルエプロンブランド。エレガンス・ガーデニング・アップリケの3つのカテゴリ。



中高生～ヤングの嗜好をキャッチしたランジェリーとインナーのブランド。アウターと同時進行のトレンドで展開。

## 業界オンリーワンをめざし、 環境変化へのスピーディな対応で 皆様のご期待に応えてまいります。

### 「専門型前売り卸業」として 業界での存在感をアピール

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて、衣料品卸業界はここ数年、厳しい経営環境の中で苦戦を強いられてきました。当社では逆境を打破するため、全社を挙げて経営改革に取り組んできました。コスト削減による経営基盤の強化を推し進める一方、商品ラインナップの見直しによって収益性の改善を図っています。

その結果、当連結会計年度の売上高は372億19百万円（前年同期比7.0%増）、経常利益は12億64百万円（同39.8%増）と予想を上回ることができました。

来期以降も小売店様のニーズに

代表取締役社長

前田佳央

即した商品戦略を積極的に展開し、「専門型前売り卸業」として業界での存在感をより一層アピールできるように努めていきます。

### 「5Action」による 業界オンリーワンの確立へ

当社では業界内での差別化を図るため、早くからオリジナル商品の開発に取り組んできました。その実績とノウハウを生かして、独自の商品提案をより戦略的に展開するため、「5Action（ファイブ・アクション）」を推進しています。

すなわち、オリジナルに徹した「商品の開発」を強化するとともに、競争力と技術力を持った「パートナーの開発」を積極的に進めています。

また、新たな「得意先開発」に力を入れる一方、「サービス開発」にも注力しています。そして、従業員の目標を明確にした「能力開発」を進めることで、業界オンリーワンの地位確立に向けた取り組みに重点を置いています。こうした5つの開発を通じて顧客満足度



のアップ、ひいては収益力の増大をめざしています。

### 卸売事業の強化と 小売事業の展開について

当社は業界最大規模の売場が特徴ですが、昨年より順次リニューアルを進めており、これによって商品提案力の向上を図っています。ファッション動向にこれまで以上に柔軟に対応することで卸売事業を一段と強化していく考えです。

新規の展望としては小売事業の展開が挙げられます。メンズおよびレディース衣料の販売会社であるサンマールの株式取得によって、小売部門への展開が可能になった上、卸部門とのシナジー効果で新たな可能性が生まれています。今後、小売事業も着実に育ててまいります。

### 組織全体を挙げて 世の中の変化に的確に対応

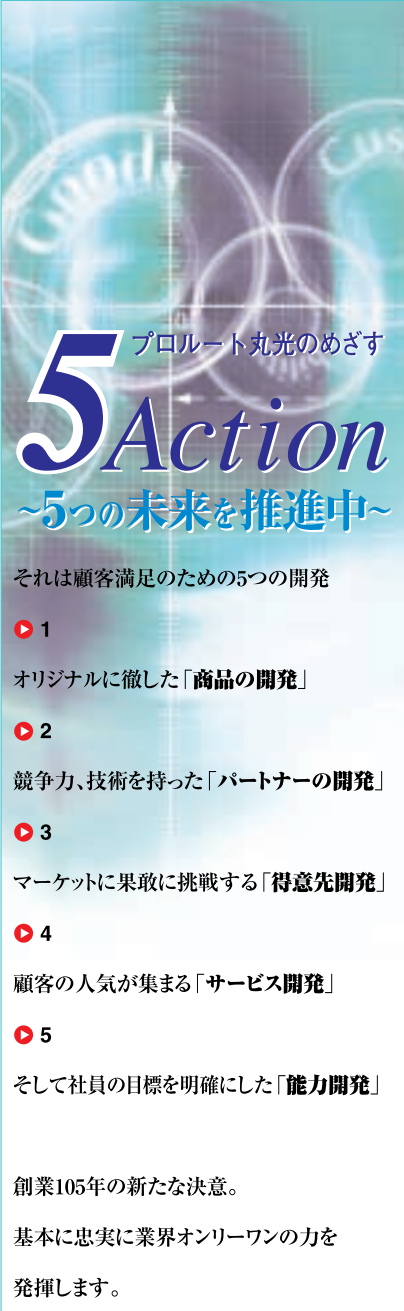
一世紀以上にわたる当社の発展の歴史は、時代の要請への対応の歴

史でした。変化の激しい事業環境に的確に対応していくことこそ、企業として新たな飛躍につながると考えています。

企業として変化に対応していくためには、組織全体の意識を変えていくことが欠かせません。特に卸売業の最大の競争優位は従業員一人ひとりの力にあるだけに、従業員のスキルアップは重要な課題といえます。当社では「総数精鋭」をキャッチフレーズに掲げて、人材育成のあり方を見直すことで全員の能力アップに努めていきます。それによって、流通の変革期をチャンスにして収益を追求できる企業をめざしていきます。

つきましては、今後とも引き続き皆様方のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年6月



プロルート丸光のめざす  
**5 Action**  
~5つの未来を推進中~

それは顧客満足のための5つの開発

- ▶ 1  
オリジナルに徹した「**商品の開発**」
- ▶ 2  
競争力、技術を持った「**パートナーの開発**」
- ▶ 3  
マーケットに果敢に挑戦する「**得意先開発**」
- ▶ 4  
顧客の人气が集まる「**サービス開発**」
- ▶ 5  
そして社員の目標を明確にした「**能力開発**」

創業105年の新たな決意。  
基本に忠実に業界オンリーワンの力を  
発揮します。

## 【連結貸借対照表】

(単位:千円)

	当期末 (平成18年3月20日現在)	前期末 (平成17年3月20日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	5,568,357	5,649,086
固定資産	17,080,550	17,745,956
有形固定資産	14,851,176	15,054,760
無形固定資産	90,861	76,556
<b>A 投資その他の資産</b>	<b>2,138,513</b>	<b>2,614,638</b>
<b>資産合計</b>	<b>22,648,908</b>	<b>23,395,042</b>
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	11,316,961	11,242,602
<b>B 固定負債</b>	<b>4,795,993</b>	<b>6,305,855</b>
<b>負債合計</b>	<b>16,112,954</b>	<b>17,548,457</b>
<b>(少数株主持分)</b>		
少数株主持分	—	—
<b>(資本の部)</b>		
資本金	1,861,940	1,861,940
資本剰余金	1,456,450	1,456,450
利益剰余金	2,844,793	2,337,788
株式等評価差額金	375,274	192,228
自己株式	△2,503	△1,821
<b>資本合計</b>	<b>6,535,954</b>	<b>5,846,585</b>
<b>負債、少数株主持分及び資本合計</b>	<b>22,648,908</b>	<b>23,395,042</b>

**A 投資その他の資産**

株式市場の活況を受け、所有している投資有価証券の時価(評価額)は増加しましたが、一方で繰延税金資産・差入保証金が減少いたしました。

**B 固定負債**

借入金の返済により、大きく減少しております。

**C 営業利益/経常利益**

商品回転率・商品単価アップ、専門店開拓効果、経費の削減等高収益体質への転換が順調に進んでおります。

**D 法人税等調整額/当期純利益**

前期比減益の最大要因は、過去に積み上げた繰延税金資産の取り崩しによるものであります。

※前期は2ヶ月弱であった子会社の(株)サンマールの連結対象期間が当期は1ヶ月となっております。

## 【連結損益計算書】

(単位:千円)

	当期 (平成17年3月21日から 平成18年3月20日まで)	前期 (平成16年3月21日から 平成17年3月20日まで)
売上高	37,219,790	34,781,642
売上原価	29,249,512	27,746,867
売上総利益	7,970,277	7,034,774
販売費及び一般管理費	6,556,515	5,951,440
<b>営業利益</b>	<b>1,413,761</b>	<b>1,083,334</b>
営業外収益	59,903	53,896
営業外費用	208,930	232,443
<b>経常利益</b>	<b>1,264,734</b>	<b>904,787</b>
特別利益	955	10,915
特別損失	89,712	3,433
<b>税金等調整前当期純利益</b>	<b>1,175,977</b>	<b>912,270</b>
法人税、住民税及び事業税	7,832	7,562
法人税等調整額	440,438	45,099
<b>当期純利益</b>	<b>727,706</b>	<b>859,609</b>

## 【連結剰余金計算書】

(単位:千円)

	当期 (平成17年3月21日から 平成18年3月20日まで)	前期 (平成16年3月21日から 平成17年3月20日まで)
<b>(資本剰余金の部)</b>		
資本剰余金期首残高	1,456,450	1,456,450
資本剰余金期末残高	1,456,450	1,456,450
<b>(利益剰余金の部)</b>		
利益剰余金期首残高	2,337,788	1,697,444
利益剰余金増加高	727,706	861,064
当期純利益	727,706	859,609
連結加入に伴う 連結剰余金増加高	—	1,455
利益剰余金減少高	220,701	220,720
配当金	220,701	220,720
利益剰余金期末残高	2,844,793	2,337,788

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位:千円)

	当期 (平成17年3月21日から 平成18年3月20日まで)	前期 (平成16年3月21日から 平成17年3月20日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	2,217,251	1,463,405
投資活動による キャッシュ・フロー	△97,017	△4,215,310
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,910,464	2,648,750
現金及び現金同等物の 増加額又は減少額(△)	209,769	△103,155
現金及び現金同等物の 期首残高	933,553	1,025,253
新規連結による現金同等物の 増加額	—	11,455
現金及び現金同等物の 期末残高	1,143,323	933,553

E

投資活動及び財務活動によるキャッシュ・フローの大きな変動は、前期において当社大阪1号館を取得したことによるものであります。

E

## 【貸借対照表】

(単位:千円)

	当期末 (平成18年3月20日現在)	前期末 (平成17年3月20日現在)
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	5,442,804	5,446,619
固定資産	17,088,039	17,592,947
有形固定資産	14,765,260	14,945,600
無形固定資産	88,424	71,012
投資その他の資産	2,234,354	2,576,333
<b>資産合計</b>	<b>22,530,843</b>	<b>23,039,566</b>
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	11,221,354	10,835,849
固定負債	4,782,045	6,291,907
<b>負債合計</b>	<b>16,003,400</b>	<b>17,127,757</b>
<b>(資本の部)</b>		
資本金	1,861,940	1,861,940
資本剰余金	1,456,450	1,456,450
利益剰余金	2,836,282	2,403,012
株式等評価差額金	375,274	192,228
自己株式	△2,503	△1,821
<b>資本合計</b>	<b>6,527,443</b>	<b>5,911,808</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>22,530,843</b>	<b>23,039,566</b>

## 【損益計算書】

(単位:千円)

	当期 (平成17年3月21日から 平成18年3月20日まで)	前期 (平成16年3月21日から 平成17年3月20日まで)
売上高	35,573,425	34,615,195
売上原価	28,251,826	27,635,063
<b>売上総利益</b>	<b>7,321,598</b>	<b>6,980,132</b>
販売費及び一般管理費	5,791,407	5,834,971
<b>営業利益</b>	<b>1,530,191</b>	<b>1,145,161</b>
営業外収益	59,340	54,152
営業外費用	205,768	233,080
<b>経常利益</b>	<b>1,383,763</b>	<b>966,233</b>
特別利益	955	10,915
特別損失	288,610	—
<b>税引前当期純利益</b>	<b>1,096,108</b>	<b>977,149</b>
法人税、住民税及び事業税	5,762	5,762
法人税等調整額	436,375	45,099
<b>当期純利益</b>	<b>653,971</b>	<b>926,288</b>
前期繰越利益	82,310	126,724
<b>当期末処分利益</b>	<b>736,282</b>	<b>1,053,012</b>

## 【利益処分】

(単位:円)

	当期 (平成18年6月15日)	前期 (平成17年6月16日)
当期末処分利益	736,282,231	1,053,012,257
これを次のとおり処分いたしました。		
利益配当金	220,682,112 (1株につき12円)	220,701,912 (1株につき12円)
任意積立金		
別途積立金	400,000,000	750,000,000
次期繰越利益	115,600,119	82,310,345



TOPICS  
01

店舗改装による提案力の強化が  
業績の向上に貢献

当社では2005年2月より大阪本店の売場を順次改装することに着手しています。これまでに婦人服や紳士服、子供服、服飾雑貨、実用衣料などのフロアを改装。これによって、今まで以上に見やすく、仕入れやすい売場にするとともに、より上質な商品やトレンド感のある商品を積極的に取り入れています。改装にともなって、売場の販促も強化。ファッションテーマを設定したセールの実施など、販促面での改善にも意欲的に取り組んでいます。

商品提案力の向上とともに来店者数が増え、売上げも伸びています。特に単価の高い商品の売れ行きが好調です。在庫の圧縮による商品回転率のアップといった副次的効果も出ています。また、売れ筋商品をタイムリーに仕入れられるという専門型前売り卸としての当社のメリットをあらためてご理解いただくことで、都市型専門店など新規のお客様の開拓にもつながっており、さまざまな形で改装の効果が現れています。

今期も引き続き売場の改装に取り組んでいき、よりお客様の支持が得られる売場づくりをめざしてまいります。



1号館8F メンズショップSESSIONS

TOPICS  
02

小売店様向けネット販売サイト  
「e-proroute」をオープン

2006年3月よりインターネット上にてネットカタログショッピング用のサイト「e-proroute」をオープンしました。これは小売店様限定のサイトで、多様なニーズに応えるための一環として、販売チャネルを増やすことにより利便性と情報発信力を今まで以上に高めることが狙いです。

開設以来まだ日が浅いですが、遠方の小売店様などから好評をいただいております。商品の閲覧については、契約されている小売店様以外でも可能なことから、これまでお取引のなかった方がご覧になって契約していただくなど、新たなお客様の開拓につながっています。

サイト内では新たにブログ（日記型情報ページ）をスタートさせ、プロルート丸光の様々な情報を小売店様にきめ細かくお伝えしています。今後は店舗での販売と並んで、「e-proroute」でも販売を積極的に推進。ネットならではの商品を充実させていくほか、商品カテゴリーを増やすなどして、小売店様の利便性をより高めてまいります。



TOPICS  
03

株式会社サンマールの  
子会社化に伴う小売事業の展開

2005年1月に株式会社サンマールの株式を取得して以来、東京地区にて紳士・婦人服の小売事業を展開しています。当社が経営に参画したことにともない、店内ディスプレイや品揃えを見直したほか、経営コストの削減など、大幅な経営革新に取り組んできました。

その結果、紳士服の旗艦店である「ケントハウスウイング新橋店」をはじめとして、10店舗のいずれも業績は好調に推移しています。特に新橋店は年間坪売上1,000万円に迫る超優良店で、業界新聞である『織研新聞』のトップ記事で紹介されたほどです。

これらの店舗は立地に恵まれている上、紳士服としてのブランド力があるほか、各店の従業員の士気も高いことから、今期も売上げの伸びを見込んでいます。また、小売事業を通じてお客様のニーズがより身近にキャッチできることから、今後、本体事業である卸部門への情報のフィードバックを進めていきます。それによって、卸部門と小売部門のシナジー効果が発揮できるように努めていく考えです。



ケントハウスウイング新橋店

## 会社概要 (平成18年3月20日現在)

会社名	株式会社プロルート丸光
創業	明治33年
会社設立	昭和26年3月27日
資本金	1,861,940,000円
従業員数	308名(注)上記の他に242名の臨時社員が在籍しております。
連結子法人等	株式会社サンマール(紳士服、婦人服、服飾雑貨等の小売業)

## 沿革

明治33年	大阪市西区靱町に「前田利右衛門商店」として創業
昭和26年3月	資本金350万円、大阪市東区南久宝寺町1丁目において、丸光株式会社を設立。呼称は「センイ丸光」
昭和34年9月	セルフサービス方式による総合衣料品前売現金問屋へ業態転換
昭和58年8月	新館(現大阪1号館)開店。売場拡大とともに、靴、鞆、宝石、アクセサリー等の服飾分野に進出
昭和63年6月	商号を「株式会社プロルート丸光」に変更
昭和63年11月	株式を公開。日本証券業協会に店頭銘柄として登録
平成3年8月	東京店開店
平成4年9月	九州プロルート丸光業務開始
平成6年5月	天理流通センター業務開始
平成14年4月	福岡店開店
平成16年3月	大阪1号館を取得し、自己所有とする
平成17年1月	株式会社サンマールを子会社化

## 役員 (平成18年6月15日現在)

代表取締役会長 兼最高経営責任者	前田辰夫	取締役 (営業本部長)	西山敏晴
代表取締役社長	前田佳央	常勤監査役	貞森衛
専務取締役 (管理本部長)	浜家良一	監査役	皆見量政
取締役 (新規事業本部長)	川元昭彦	監査役	山本良作



本社・大阪1号館(装いの館)

〒541-0056大阪市中央区  
久太郎町二丁目1番5号  
TEL.06-6262-0303(代表)  
土地面積 3,368㎡  
延床面積 31,370㎡



大阪2号館(生活の館)

〒541-0058大阪市中央区  
南久宝寺町二丁目1番1号  
TEL.06-6262-0303(代表)  
土地面積1,914㎡  
延床面積13,776㎡



東京店

〒103-0003東京都中央区  
日本橋横山町6番地16号  
TEL.03-3668-0103(代表)  
土地面積384㎡  
延床面積2,339㎡



福岡店

〒813-0034福岡県福岡市  
東区多の津四丁目4-1  
TEL.092-629-0031(代表)  
土地面積880㎡  
延床面積2,817㎡



天理流通センター

〒632-0081奈良県天理市  
二階堂上之庄町字芦田32  
TEL.0743-64-2507(代表)  
土地面積7,703㎡  
延床面積13,241㎡



九州プロルート丸光

〒841-0048佐賀県鳥栖市  
藤木町字若桜10-30  
TEL.0942-85-3130(代表)  
土地面積3,013㎡  
延床面積1,297㎡

## 株式の状況 (平成18年3月20日現在)

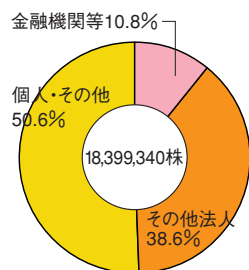
■ 会社が発行する株式の総数	32,600,000株
■ 発行済株式総数	18,399,340株
■ 株主数	1,145名

## 大株主の状況 (平成18年3月20日現在)

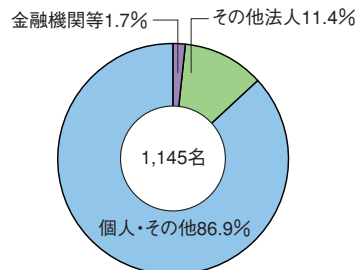
株主名	株主の当社への出資状況	
	所有株式数	議決権比率
(株) ワゴン	3,363,000株	18.31%
前田辰夫	1,704,001株	9.28%
当社取引先持株会	1,095,500株	5.96%
前田忠子	825,155株	4.49%
(株)近畿大阪銀行	713,500株	3.88%
(株)サンエー	525,000株	2.85%
(株)みずほ銀行	428,800株	2.33%
自社従業員持株会	384,267株	2.09%
松下安郎	375,000株	2.04%
(株)萬栄	371,000株	2.02%

## 所有者別分布状況 (平成18年3月20日現在)

## ■ 株式数別



## ■ 株主数別



## 株主メモ

事業年度	毎年3月21日から翌年3月20日まで
基準日	定時株主総会 3月20日
剰余金の配当	期末 3月20日 中間配当を行う場合は 中間 9月20日

単元株式数 500株

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社同事務取扱場所 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
(お問い合わせ先) 三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部

☎0120-094-777 (通話料無料)

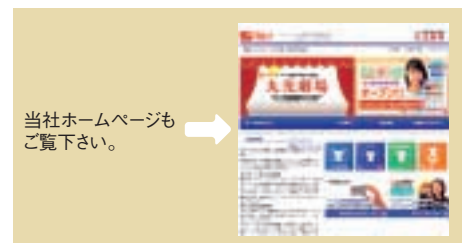
同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店  
野村證券株式会社 全国本支店※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の  
三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネット  
でも24時間承っております。

電話 (通話料無料) ☎0120-244-479 (本店証券代行部)

☎0120-684-479 (大阪証券代行部)

インターネットホームページ<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公 告 方 法 日本経済新聞

<http://www.proroute.co.jp>

成長をめざす小売店さまのお仕入れルート



株式会社 **プロルート丸光**

〒541-0056 大阪市中央区久太郎町二丁目1番5号

TEL 06-6262-0303 (代表)

<http://www.proroute.co.jp>



(証券コード番号 8256)



PRINTED WITH  
SOY INK

この報告書は、環境に配慮し、再生紙と大豆油インキを使用しています。